

## 第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

奈良教育大学附属中学校 教諭 竹田 ゆい

### 1. 単元名 1、2年合同奈良めぐり

### 2. 単元の目標

・奈良県にある戦争遺構について、その所在地や戦争遺構となった歴史的背景、その場所にはかつてどのような人たちの日常があったのかなどを知り、理解することができる。

(知識・技能)

・フィールドワークやディスカッションで得た情報をもとに、戦争に関わる知識や今もなお語り継がれている戦争の事実についてスライドやレポートにまとめ、他のグループに発表・説明をすることができる。

(思考・判断・表現)

・奈良県に現存する戦争遺構に興味を持ち、それらの歴史的背景や遺構を残すことの意義、後世に伝えていきたいことなどについて、自ら進んで探究しようとしている。

(主体的に学習に取り組む態度)

### 3. 単元について

#### (1) 教材観

2025年、日本は戦後80年を迎えた。当時、戦争を体験された方々は高齢になったり、亡くなったり、だんだんと数が減ってきた。戦時中の様子を後世に語り継いでいく人がいなくなり、戦争を知らない世代ばかりになっているのが現状である。

戦争遺構とは、戦争を行うために作られた施設や、戦争の被害を受けた建物、またその跡地などのことを指す。ヒロシマの原爆ドーム、オキナワのひめゆりの塔などが代表的なものであるが、奈良県にも戦争遺構がたくさん現存している。例として、奈良女子大学構内にある「奉安殿」や奈良女子大学附属中等教育学校校内にある「米軍キャンプ跡地」、奈良教育大学構内にある「奈良連隊跡地」などがあげられる。これらの遺構は、実際に奈良県にも戦争があったことを現在の私たちに伝えてくれる重要な建造物であり、今なお風化することなくその姿を見ることができる。

前述した通り、戦後80年を迎えた今、各地で語り部として活動している人たちもどんどん高齢になり、戦争が起きた事実を伝えることが難しくなっている。生徒自身に、身の回りにある戦争遺構を訪れ、戦争が起きたという事実を後世に伝えていくにはどうすればいいのかを考え、実現できるような方法を見つけ、考えさせたい。

#### (2) 生徒観

奈良教育大学附属中学校の生徒の多くは、同じ奈良教育大学の附属小学校から進学している。特に附属小学校では、6年間を通して平和教育に力を入れており、その影響もあり戦争

や平和といったワードへの関心が高いように感じる。そのため、「戦争はいけないことだ」「二度と戦争は起こしてはならない」といった戦争の悲惨さを理解することはできている。一方で、戦時中の街の様子やその土地で生活していた人々の様子、当時の学校教育の様子など、毎日のように敵軍の飛行機が飛び交い焼夷弾を落としていく戦禍の中で営まれていた市民の日常の様子にフォーカスを当てて理解し考えることは、まだまだ足りないように感じる。

そのような生徒たちに、戦争の悲惨さだけではなく、今も昔も変わらず日常があることなどの事実気づき、平和についての興味や関心を深めてほしいと思う。

### (3) 指導観

本単元は、総合学習の時間の「1、2年合同奈良めぐり」の1つのコースとして立案計画する。

そのため第1段階として、奈良県にはどのような戦争遺構が存在しているのか、またその戦争遺構の歴史・成り立ち・戦争で受けた被害や影響などを学習させたい。生徒自身が平和について考えるための材料として、実際に奈良県で戦争を体験した方のお話を聞いたり、市で行われている戦争展などに行ったりすることで知識を身につけさせたい。

第2段階では、フィールドワークを行い、実際の戦争遺構を訪れることで感じたことや気づいたことを記録し、第3段階には、後輩や同級生にそれらを共有するための準備を行う。そして、第4段階で、学んだ内容をプレゼンするという方向で進めていく。

### (4) ESDとの関連

#### ・ 本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

##### ○相互性

過去に戦争が起こったという事実、また二度と同じことを繰り返さないためにできることを考える。

##### ○公平性

戦争を経験した世代と、経験していない世代の世代間でのつながりを意識する。

#### ・ 本学習を通して育てたいESDの資質・能力

##### ○批判的に考える力(クリティカル・シンキング)

戦争はいけないことだという考え方に捉われず、多角的に物事をみることができる。

##### ○多面的・総合的に考える力(システムズ・シンキング)

「なぜ戦争が起こったのか」「平和とはいったい何なのか」といった戦争や平和に関する事象に関して、それぞれの国の立場や時代背景、時間軸など様々な視点から理解する。

##### ○つながりを尊重する態度

訪れる場所によって、「戦争」という出来事に対して感じることはそれぞれ違う。そういった同じ出来事に対するヨコ(地域)のつながりを意識することができる。

・ 本学習を通して変容を促すESDの価値観

○世代間の公正

未来の世代が豊かで安全で平和に暮らせるように、今の自分たちには何ができるのかを考える。

○人権・文化の尊重

長きにわたり残されてきた戦争遺構の存在意義を学ぶことで、なぜ遺構が今もなお大切に残されているのかという理由を知ると同時に、当時の人々が戦時中をどのように生きてきたのかを感じる。

・ 達成が期待されるSDGs

- 10 人や国の不平等をなくそう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

**4. 単元の評価規準**

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①奈良県に現存している戦争遺構に関する情報を正確に調べ、理解している。	①フィールドワークやディスカッションを通じて得た情報をもとに、自分たちでまとめ、発表している。	①平和に関する興味や関心、また自分で知りたいと思ったことなどを明確にし、積極的にフィールドワークやディスカッションに参加している。
②他者の意見を聞き、その内容を自分の学びに取り入れている。	②講師の方に聞いた内容や自分たちで調べて得た情報など、戦争遺構に関する情報をわかりやすくスライドやポスターにまとめている。	②自ら進んで質問をしたり、調べたりしながら発表準備に取り組んでいる。

**5. 単元の指導計画（全8時間）**

	主な学習活動	学習への支援及び生徒の様子	評価備考
1	事前に「平和」に関連するアンケートを実施する。 ・今までどのような平和教育を行ってきた？ ・平和についてあなたは思う？	○アンケートを行うことで、生徒がどれくらい戦争や平和に関心があるのかを見る。 →今の世界は平和だと思う？という問いに対しては、44.8%が「平和」	アー①

	<p>・ 今世界は平和だと思う？ など</p>	<p>だとは思わないという回答をした。 (全 29 件)</p>	
2	<p>フィールドワークの計画①</p> <p>・ 夏休みに聞いた話や、戦争展で見たことなどを共有する。</p> <p>・ 周辺にどのような戦争遺構があるのかを調べる。</p>	<p>○写真や資料を提示しながら、共有の手助けを行う。</p> <p><b>【生徒の様子】</b></p> <p>戦争展では、写真や現存しているモノなどを目の当たりにし、「戦争」という出来事に対して、少し身近に考えられている様子が見られた。</p> <p>また、当時の人たちの様子に「自分たちと同じ年や。」や爆撃があったとされる箇所が書かれた地図を見て「こんな近くに爆弾落ちてたんや」など、驚きの声も多くあった。</p>	<p>ア－① ウ－①</p>
3	<p>フィールドワークの計画②</p> <p>・ 奈良めぐりで巡るコースの設定を行う。</p> <p>・ 当日、1年生に伝える内容を考える。</p>	<p>○コース設定やタイムスケジュール作成の指導をする。</p> <p><b>【生徒の様子】</b></p> <p>何も知らない1年生にどのように伝えたら、興味を持ってくれるのか、わかりやすく伝えるためにはどういった写真を使うのがいいか、など試行錯誤しつつも、各自部ループ内で協力している様子が見られた。</p> <p>中には、「絶対この場所は回って1年生に見せてあげたい。」といった強い思いを持っている生徒もいた。</p>	<p>ウ－① ウ－②</p>
4	<p>奈良めぐり (フィールドワーク・ディスカッション)</p> <p>・ 7班のグループに分かれて、実際に街中に残っている戦争遺構を巡る。</p> <p>・ 奈良教育大学構内にある、奈良れん隊の残した遺構を巡る。</p> <p>・ 「平和」に関連する話題について、</p>	<p>○フィールドワークやディスカッションにおいて、行き詰っているグループなどには、具体的な指示やアドバイスを適宜行う。</p> <p><b>【生徒の様子】</b></p> <p>戦争遺構のことを伝えるのはもちろんであるが、少し歩みの遅い1年生を気遣ったり、「今の説明でわか</p>	<p>ア－① ウ－①</p>

	<p>グループで話し合う。</p>	<p>った？」といった理解を確認する声掛けをしたり、先輩としての一面を見ることができた。一方で一年生も教えてもらったことを一生懸命メモしたり、疑問を質問したりなど、戦争遺構のことを二年生から学ぼうとする姿勢が見られた。</p> <p>また午後からの活動では、先輩後輩の垣根を越えて、どのグループも積極的に交流をすることができていた。中には、一年生の言ったことに対して二年生が「その見方もあるんか!」「すごいなあ」と感心する様子も見受けられた。</p>	
5	<p>フィールドワーク・ディスカッションで学んだこと、得たことをまとめる。</p> <p>・グループで得た知識や情報を共有し、感じたことや発表で伝えたいことをまとめる。</p>	<p><b>【生徒の様子】</b></p> <p>実際に活動を終えて、二年生は多くの反省があった様子だった。</p> <p>もう少しわかりやすく説明ができたのではないか、人に物事を伝えるのはむずかしいといった声もあがった。この反省を生かして、次はスライドとポスターを制作、コース外の一年生に伝えるための準備を始めた。</p> <p>写真の選定や、限られた文字数の中でどのように自分たちが学んできたことを伝えるか、悩んでいる様子だった。</p> <p>「ほかの人にも平和って何か聞いてみたい」と言って、コース外の人たちに意見を聞くことができるような仕組みを考えるグループもあった。</p>	<p>イー① イー②</p>

6	<p>プレゼンテーションの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに発表する原稿を考える。</li> <li>・原稿をもとにスライドを作成する。</li> <li>・プレゼンテーションのリハーサルを行う。</li> </ul>	<p>○発表のリハーサルに対してアドバイスをし、プレゼン技術の向上をサポートする。</p>	<p>アー② ウー②</p>
7	<p>プレゼンテーション①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに発表する。</li> <li>・発表ごとに、フィードバックを行う。</li> <li>・フィードバックを受け、グループ内で修正を加えながらより良い発表ができる形にしていく。</li> </ul>	<p>○発表の対象は、同学年の他のグループ。</p> <p>○フィードバックを行う際に、改善点だけではなく良かったところも同時に伝えるように声をかける。</p>	<p>アー② イー①</p>
8	<p>プレゼンテーション②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに発表する。</li> <li>・他のグループの発表を聞いて、感じたことをまとめる。</li> </ul>	<p>○発表の対象は、第1学年とする。</p> <p><b>【生徒の様子】</b></p> <p>どのグループも楽しそうに、またしっかりと自分たちが夏から見て、聞いて、学んだことを伝えることができていた様子だった。一年生からの質疑にもしっかりと回答できていた。</p> <p>この発表を通して、一層「平和」や「戦争」といった事柄に対して興味が出てきたという生徒もいた。</p>	<p>アー② イー① ウー①</p>